

日本消防



口 絵 日本消防会館新築工事「竣工」ー 8月末より新会館へ移転開始 ー

巻頭言 「自助、共助、公助～大事なのは近助(所)」……………	(一助)熊本県消防協会 会長 山本 一樹 ……	1
日消の動き 新日本消防会館、いよいよオープンです。……………	(公助)日本消防協会 会長 秋本 敏文 ……	3
日本消防会館新築の竣工式を開催しました……………	(公助)日本消防協会 ……	4
日本消防防災情報センター……………	(公助)日本消防協会 ……	6
特別表彰「まとい」を受賞して 「長泉町の 安全・安心なまちづくりに向けた活動について」……………	長泉町消防団 団長 小林 一明 ……	10
東西南北 (福島県) 「地域のヒーローを目指して」……………	檜葉町消防団 団長 五十嵐 カー ……	12
東西南北 (神奈川県) 「「質の高い」消防団を目指して」……………	大和市消防団 団長 小菅 実 ……	14
東西南北 (香川県) 「地域防災の要を目指して」……………	観音寺市消防団 団長 豊田 敏計 ……	16
シンフォニー (静岡県) 「これならできる♫～いざという時の備え～」……………	牧之原市消防団 女性消防隊 班長 畑 しおり ……	18
消防団加入促進への取組み 地域に理解される消防団を目指して……………	滋賀県 日野町消防団 ……	20
がんばる消防団の味方! 『全国消防団応援の店』を紹介します……………	(公助)日本消防協会 福祉部 ……	22
ぼうさいこくたい2024 in 熊本 令和6年10月19日・20日開催……………	(公助)日本消防協会 ……	24
第52回全国消防救助技術大会について……………	(一助)全国消防協会 ……	26
活動事例……………	滋賀県 草津市消防団、愛媛県 松山市消防団 ……	29
熱中症による救急搬送の状況及び予防啓発の取組について……………	総務省消防庁 救急企画室 ……	30
消防団の組織概要等に関する調査(令和6年度)の結果……………	総務省消防庁 ……	33
令和5年中に発生した製品火災に関する調査結果……………	総務省消防庁 予防課 ……	36
輪島市大規模火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会報告書の概要について……………	総務省消防庁 消防・救急課／予防課 ……	37
うちの団のPR 「実火災への対応力強化のために」……………	熊本県 高森町消防団 副団長 吉良 嘉文 ……	41
うちの団のPR 「水俣市消防団を紹介します」……………	熊本県 水俣市 水俣市消防団 ……	42
うちの名物団員……………	神奈川県、京都府、熊本県、福島県、静岡県、熊本県 ……	43
消防団の広場(京都府) 「小さな積み重ねを大切に、京丹後市の安全・安心な暮らしを守る」……………	京丹後市消防団 団長 川浪 隆将 ……	45

編集後記

表紙写真説明

「日本消防会館」

新しい日本消防会館は、令和3年11月に着工し令和6年8月15日に竣工しました。
高さ70m、地上14階（S造）、地下2階（SRC・RC造）で制振構造の建物となっています。
外観は、白基調の壁面と開口面を抑えた窓で構成され、シンプルなフォルムとなっております。
そのため、安定感のある落ち着いた外観デザインとなっており、エネルギー効率を考慮した建物となっております。

写真提供者：日本消防協会

日本消防会館新築工事「竣工」

— 8月末より新会館へ移転開始 —



虎ノ門ヒルズステーションタワー側



虎ノ門病院側



1階 日本消防防災情報センター(試験調整中)



ニッショーホール(舞台)



ニッショーホール(客席)

巻頭言

「自助、共助、公助～大事なものは近助(所)」

(一財)熊本県消防協会 会長 山本 一樹



熊本県消防協会会長の山本です。八代市の消防団長を務めております。

1月1日に発生した能登半島地震で犠牲になられた皆様に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

平成28年の熊本地震や令和2年7月豪雨で自然災害の猛威を経験した私たちには、とても他人事とは思えません。

いまだに避難所などで不自由な生活を送っていらっしゃる方々もいらっしゃると思いますが、どうか一日も早く日常が取り戻されることをお祈り申し上げます。

【熊本県の紹介】

熊本の紹介をさせていただきます。

熊本県は九州の中央に位置し、北は福岡県、東は大分県、宮崎県、南は鹿児島県に隣接しており、西は有明海を挟んで長崎県とフェリーで結ばれています。また、佐賀県鳥栖市は九州新幹線を使えば、わずか25分の距離にあります。

人口は減少傾向で約170万人、そのうちの4割を超える74万人が政令指定都市の熊本市に集中しています。

熊本といえば阿蘇を思い浮かべる方が多いと思います。広大なカルデラの中に約6万人の人々の暮らしが営まれている世界でも類をみない地域として、世界文化遺産への登録の取り組みが進められています。

県下各地で温泉が湧出するなど阿蘇の火山の

恵みにより熊本は「火の国」と呼ばれています。

また、太古に発生した阿蘇の大規模な火砕流の堆積物などの条件が重なって、熊本は水に恵まれており、水道水の80%は地下水で賄われています。「蛇口をひねればミネラルウォーター」と言われるように熊本は「水の国」でもあります。

【熊本の経験】

熊本地震は何の前触れもなくいきなり襲ってきました。

平成28年4月14日21時26分、マグニチュード6.5、益城町で最大震度7の大きな揺れを観測しました。その28時間後、被害の状況もまだ把握しきれていない4月16日午前1時27分、マグニチュード7.3、益城町と西原村で再び震度7の猛烈な揺れを記録しました。その後も、最大震度5弱以上の強い余震が22回も発生しました。

「本震」と「余震」があることは知っていましたが、最初の地震が「前震」だとは思っていませんでした。

本震直後には私が団長を務める八代市で火災が発生しましたが、消防団が消火活動にあたり、幸い大きな火災にはならず鎮火することができました。

震度が大きかった地域では家屋の倒壊が相次ぎ、道路が寸断されていたため、救助機関の到着を待つ余裕はなく、消防団が、閉じ込められた住人の救出、安否確認、避難誘導にあたりました。南阿蘇村消防団で5名、西原

村消防団で7名、益城町消防団で47名の要救助者を救出しました。

その後も、余震が続く中、給水活動や炊き出し、食料配布などの避難所運営支援、空き巣窃盗防止を兼ねた定期的な被災地の巡回・警戒活動など、自分も被災者であるにも関わらず、被災者支援活動を行ってくれた団員にはただただ頭が下がる思いです。

そして、熊本地震から4年後、令和2年には豪雨災害が発生しました。

7月3日から4日にかけて、例年の7月一か月分に相当する猛烈な雨が降り、大雨特別警報が発令されました。

大量の雨は、県の南部を流れ、日本三大急流の一つと言われる球磨川やその支流に流れ込み大氾濫を起こしました

各消防団では、3日には避難誘導を行いました。増水のスピードは速く、翌朝にはあつという間に河川や水路などから水が溢れ出しました。

消防団の詰め所や消防車両、避難所も浸水する中、多くの人々がヘリで救助されました。ボートが不足する中、保育園のプラスチック製軽量プールをボート代わりに活用して、2階や屋上に避難している住民を救出したという臨機応変な消防団の活動がありました。

水が引いてからは、新型コロナウイルスの影響で活動が制約される中、被害がなかった消防団から車両を借り、安否確認や避難の呼びかけを行ったり、道路や被災家屋の瓦礫や土砂、泥の撤去を行ったり、孤立した集落に食料品や日用品を歩いて届けるといった活動を行いました。

これらの本県で発生した2つの大きな災害に対して、全国各地から応援に駆けつけていただき、また、温かい義援金、支援金をお寄せいただき大変ありがとうございました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

【自助、共助、公助～大事なのは近助（所）】

災害に際して、「自助」、「共助」、「公助」の連携が重要だと言われています。

阪神・淡路大震災では「自助」と「共助」により約8割が救出されたとも言われています。

私は、その中でも一番大事なものは「近助（所）」ではないかと思っています。

空振りを恐れずに、早めの避難を行ってもらうには、近所の声掛けが何よりも大事です。どの家庭にお年寄りや障害を持った方が住んでいるかを一番理解しているのは近所の方々だと思います。

いざ、被災した時も、救助が来るまで待っている余裕はないかもしれません。まずは、近所の皆さんが協力して、できることを行うことが大事です。

私たち消防団員は、非常勤特別職の地方公務員ですので、そういう意味では「公助」を担う一員だと思います。

しかし、ひとたび災害に直面すると、自助、共助、公助と言っている暇はありません。

消防団員も「近助（所）」の一員、リーダー格として、活動することが必要です。

消防団員が減少する中、女性消防団員は増えてきています。熊本地震の際、女性防火クラブの連携が、避難者を支援する取り組みに大きな力を発揮しました。女性消防団員には、ご近所のネットワークを生かして、「近助」を作り上げるリーダーになってほしいと思っています。

男性、女性と区別するつもりは毛頭ありませんが、これからの時代、皆で男女協同の消防団を作っていきましょう。

【補足】

八代市本部女性消防隊は、全国女性消防操法大会を2連覇しました。このように男性顔負けの操法を披露する女性隊員もいることを付け加えておきます。

新日本消防会館、いよいよオープンです。

(公財)日本消防協会 会長 秋本敏文

新しい日本消防会館が遂に完成し、8月中旬には引渡しを受けました。設計は三菱地所設計さん、建設は鹿島建設さんに、いろいろな事情があるなかがんばって頂きました。日本消防協会をはじめとする入居団体の引越しには約1か月を要しますので、それが終わった10月初め、いよいよ本格オープンです。ここにいたるまで、全国の消防関係の皆さんをはじめ、本当に多くの方々のご協力を頂きました。感謝、感謝です。これからは、新会館を建設してよかったなあと評価して頂けるように努力しなければなりません。

そのためにはいろいろやらなければなりません。まずは、消防関係の皆さんに新会館において頂き、ご覧頂いて親しんで頂けるようにして、そうして自分たち消防の「城」ができたぞと思って頂きながら、これを活用しようというお気持ちになって頂きたいと思います。そうして、全国の市町村をはじめとする地方公共団体の皆さんにも親しんで頂き、活用して頂けるようにしなければなりません。そのようなことから、まず、10月3日(木)には、新会館での最初の公式行事ということになるのですが、今年の消防殉職者慰霊祭を午前中に厳粛に執り行いまして、気分を転換した午後には、新会館完成のお祝いをしたいと思っています。そしてその後、11月7日(木)には地域防災力充実強化につながる全国大会を、さらに11月29日(金)には、自治体消防75周年の記念大会を行います。

このようなイベント以外にも、全国の消防関係の皆さんには新会館において頂けるように工夫したいと思いますし、特別な行事はなくても1階の日本消防防災情報センターでは、日本消防の歴史に大きな関わりをもつ災害の記録や全国各地でがんばっておられるいろいろな活動記録をご覧頂けますので、これらも楽しんで頂けたらありがたいと思います。

そのようなことをしながら、将来の日本消防を考えますと、能登半島地震の体験、あるいは、地球環境の変化のもとこれまでと様相が異なる災害が多発している世界各国の情報を収集整理して、議論するような機会も考えたいですね。何しろ、新会館のような消防の総合拠点、世界に例がないと思われますので、世界各国も関心をもってくれるのではないのでしょうか。

このようにいろいろと活用して、皆さんに評価して頂けるようにみんなでがんばらなければなりません。新会館の1,000席のホールは音響にも配慮してありますので、音楽関係のイベントや各種の会議場などに幅広く活用して頂くことができます。大いにご活用頂き、その機会に日本消防防災情報センターをご覧頂くと、これが消防のことについてご理解頂く機会にもなるでしょう。

新会館完成にいろいろな面でご協力頂いた方々に深く感謝申しあげ、これを最大限活用できるようみんなで努力しますこと、重ねて申しあげさせていただきます。

日本消防会館新築の竣工式を開催しました

(公財)日本消防協会

日本自治体消防の総合的な中核拠点及び市町村自治行政の発展に寄与することを目的とした新たな日本消防会館の建設を進めてまいりました。このたび、この日本消防会館の完成に伴い、令和6年8月20日に竣工式を執り行いました。式には新会館に携わっていただいた関係者の方々に参列していただきました。無事にこの日を迎えることができましたのは、これまでの全国消防関係者の皆様方のご協力があったのと深く感謝しております。

新築された日本消防会館は、すでにお知らせしておりますように、地上14階、地下2階で多くの消防関係団体がオフィスを構えるとともに、多目的に使える1000人を収容するニッショーホール、大小の会議室を備え、1階には様々な消防防災の情報を展示する日本消防防災情報センターを設置しており、パワーアップした会館に生まれ変わりました。今後は、より多くの方々に親しまれ、長く愛される会館となっていくことを願っております。





感謝状贈呈(株式会社三菱地所設計 代表取締役社長 谷澤 淳一 様)



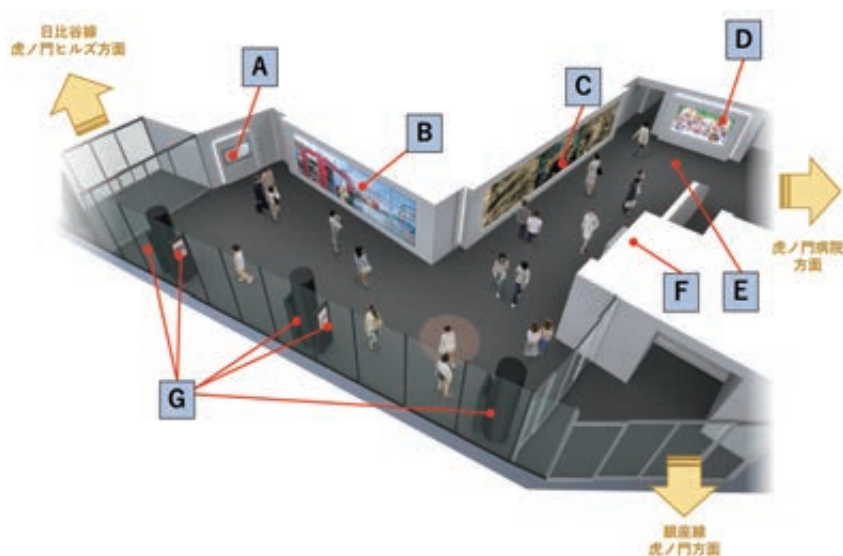
感謝状贈呈(鹿島建設株式会社 東京建築支店 専務執行役員 支店長 松嶋 潤 様)

日本消防防災情報センター

(公財)日本消防協会

新しい日本消防会館1階に日本消防防災情報センターを開設しました。ここでは、これまでに日本において、また、海外において経験したさまざまな災害の状況、その経験の中から防火防災、減災のために行ってきた取組み、これからの対応などの情報を提供します。

この情報センターには、消防関係者だけでなく、一般の皆さんも自由に出入りできますから、幅広く皆さんにご覧いただき、消防防災に関する知識、ご理解を深めていただく機会とすることが期待されます。



Aゾーン

日比谷線虎ノ門ヒルズ駅方面から入場していただいた時に、すぐ近くにあるのがAゾーンですが、ここでは「日本消防会館・日本消防協会の沿革」と「新日本消防会館の概要」の映像をご覧いただくことができます。

戦前・戦後を通して協会事務所及び日本消防会館は6回の建替えになりますが、その間における日本消防協会のあゆみを歴代の会長をはじめ、皆様にもなじみ深かった改築前の会館が笹川良一会長の時に建設され在職期間17年2カ月の中で、日本消防の発展に大きく寄与されたことも明らかにし、現在までの取組みを映像でご覧いただけます。



また、「新日本消防会館の概要」では、新しく生まれ変わった日本消防会館の概要をご覧ください。

Bゾーン及びCゾーンは我が国の消防の充実強化等に大きな影響を与えた大規模な災害体験等を分析展示しております。

Bゾーン

「関東大震災」の映像を大画面でご覧になることができます。今からちょうど101年前の大正時代、さまざまな都市問題が浮き彫りになっていた時に、マグニチュード7.9の大地震が発生。これをCG地図フルスクリーンにより、被害の全体像を明らかにし、火災による延焼拡大の経緯と原因を分かりやすく分析し、特に、死者行方不明者数の大多数の方々がお亡くなりになった原因が火災によるものであることから、火災に焦点を当て、そこに被災体験者の体験談を折り込み、生死を分けた要因を分析しております。最後に、現在の東京が抱える課題を示しながら、私たち一人ひとりが日頃からの備えが大切なことを訴えています。



Cゾーン

「阪神淡路大震災」の映像を大画面でご覧になれます。今からちょうど30年前に発生した都市直下型地震で、現在の「緊急消防援助隊」はこの大震災の教訓から発足した制度です。

中央画面は、震災当時の家屋損壊、市街地火災、高速道路倒壊などの映像を背景に、この震災をさまざまな立場で体験された方々の活きた体験談をもとに、震災当時、困難を極めた環境下における消防活動を通して、消防人同士のチームワークや、他都市からの応援受け入れ、更には海外からの応援受け入れ、そして、避難所運営での住民同士の助け合いなど、さまざまな体験をとりあげています。

また、Cゾーン左画面は、災害デジタルマップとして体験型コンテンツです。

ここは、被災地のデジタルマップ上に約200箇所の当時の災害状況の写真や市民インタビュー動画を落とし込んでおり、視聴者の選択により、その地域の当時の震災写真や動画をご覧いただくことができます。

Cゾーン右画面は、「時系列で体験する震災」体験型コンテンツです。

1月17日、5時46分に震災が発生した以降から、2月14日の「阪神・淡路大震災」と名称が決定された日までの間を時系列でまとめたもので、その時系列の中に当時の震災写真や震災動画を視聴することができます。



Dゾーン

「日本消防の沿革」をご覧になることができます。

この画面は虎ノ門病院方面側からの入口ですと、最初の画面になります。

この映像は、日本消防の幕開けである江戸時代の武家と町人による火消組織・破壊消防から、現在の「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の制定など、日本消防がたどってきたあゆみと現在向き合っている「地域防災力の強化」の最前線をご覧いただくことができます。



Eゾーン

「海外の消防事情」をご覧になることができます。

近年の気象状況のもと、海外で発生しているさまざまな災害等の事例、現地の対応の状況を日本消防としても参考にするためのゾーンで、ギリシャ、フィンランド、ポルトガル、フランス、中国の5カ国の映像をご覧いただけます。



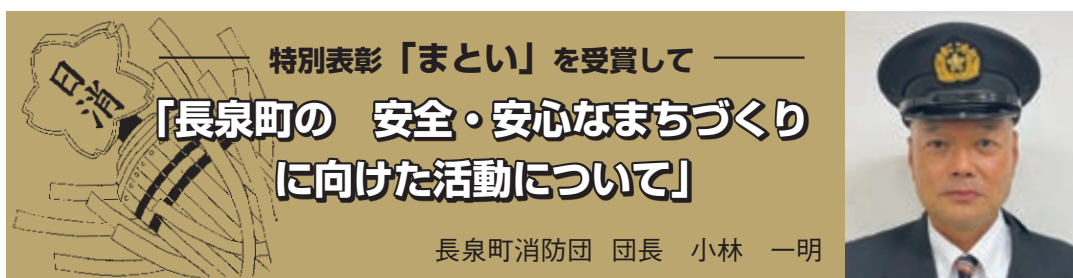
F～Gゾーン

全国各地の幅広い消防防災活動の状況をご覧になることができます。

我が国の消防団、女性防火クラブ、少年消防クラブ、自主防災組織、常備消防等の多彩な映像、約300本の映像を視聴者が選択してご覧になることができます。



このように日本消防防災情報センターにおいては、消防防災に関するさまざまな情報展示を行っており、これからも消防関係者はもとより、一般の皆様にもご覧いただくことを意識しながら、消防防災活動の一層の充実発展に関連する幅広い情報を提供してまいります。



1 はじめに

令和6年3月8日第76回日本消防協会定例表彰において、消防団として最高の荣誉である特別表彰「まとい」を受賞いたしました。

全国2,200余りの消防団の中から毎年10団体に限り授与される荣誉ある表彰を受賞できましたことは、長泉町消防団一同はもとより、消防関係者、長泉町民にとってこの上のない喜びであり誇りとなりました。

これもひとえに、消防団活動にご理解とご協力をいただきました、団員家族をはじめ、長年にわたり町民の安全安心のため尽力されました消防団の諸先輩方、そして、長泉町民の皆さまのおかげであり、心より感謝申し上げます。

2 長泉町の紹介

長泉町は、静岡県東部の伊豆半島の基部に位置し、北に霊峰富士を仰ぎ、東に箱根連山を眺め、緑豊かな愛鷹山中から滔々と湧き

出る桃沢川、町のほぼ中央を縦貫する黄瀬川など、美しい自然に囲まれた気候温暖な地域です。町の面積は26.63km²で、広ぼうは東西9.1km、南北12.0kmのコンパクトな町であり、東海道新幹線三島駅や新東名高速道路長泉沼津IC等による交通利便性や豊富な地下水等の資源を活かした産業集積と、自然を肌で感じられる快適な住環境を魅力に、豊かで活力のある町として、県内屈指の高い人口増加率や出生率を誇るなど確実な発展を続けている町です。

3 長泉町消防団の紹介

長泉町消防団は、団本部役員、女性消防及び4個分団の合計102名(令和6年4月1日現在)の団員で構成され、消防ポンプ車4台、小型動力ポンプ付き積載車1台、消防団本部指揮車及び防災活動車各1台、人員搬送車2台を配備し、町民の生命・財産を守るため、日々、訓練に励んでおります。



大会操法



大会集合写真



訓練指導 1



訓練指導 2

4 長泉町消防団の活動

長泉町消防団の活動は、火災や水防等の災害活動はもとより、毎月の定期訓練やパトロール、応急救護訓練や規律訓練などの各種訓練をはじめ、町行事やfacebookなどによる広報活動を実施するとともに、自主防災会への訓練指導や各自治会の催しの警備など、地域との連携に力を入れております。近年、幸いにして、火災が減少傾向にあるなか、一方では、実際の火災現場を経験した団員が少ないことから、各分団では、様々な火災現場を想定した、実践的な定期訓練を重ねるとともに、年2回の消防団と消防署が連携した火災想定訓練の実施や総合防災訓練を通じて、技術の向上に努めております。また、大雨や土砂災害などによる被害が見込まれる際には、河川の監視やパトロールを実施しています。

5 おわりに

長泉町消防団は、予見される南海トラフを震源とする巨大地震などの大規模地震災害はもとより、近年、大規模化、激甚化する風水害に備え、日々、訓練を実施し、「まとい」受賞の名に恥じぬよう消防団活動を継続してまいります。

結びに、今回の受賞にあたり、特段のご高配を賜りました日本消防協会、静岡県消防協会をはじめ、消防関係機関各位に厚く感謝申し上げますとともに、皆様方のご活躍を祈念いたしまして、受賞の挨拶とさせていただきます。



辞令交付式



「地域のヒーローを 目指して」



檜葉町消防団 団長 五十嵐 カー

1 福島県檜葉町の紹介

檜葉町は福島県浜通り地方のほぼ中央に位置し、緑豊かな阿武隈高地と太平洋の大海原に囲まれ、町の中心には木戸川と井出川が流れる自然豊かな町です。積雪は年1、2回程度と気候は温暖です。観光スポットとしては、温泉や宿泊施設も備え、多くの家族連れで賑わう「天神岬スポーツ公園」や、木戸川の美しい溪谷とダムなどがあります。

そして檜葉町は、13年前の東日本大震災で被害を受け、原子力発電所の事故により全町避難を経験した町でもあります。慣れない土地での避難生活を経験しましたが、平成27年9月、4年半にわたる避難指示が解除され、復興に向けたゼロからの新たなまちづくりがスタートしました。

2 檜葉町消防団の概要

檜葉町消防団は、8分団、基本団員数

171名、機能別団員数73名の計244名(条例定数400名)で構成されています。

消防団員の減少は全国共通の課題ではありますが、全町避難した私たちの町では帰町していない住民も多く、団員不足は極めて深刻でした。そのため、各行政区、町、消防団で幾度も協議を行い、その結果、平成30年4月に機能別消防団員の制度を導入することにいたしました。

また、団員不足に悩む中、婦人消防隊から「基本団員として、もっと町民のために活動したい!」という頼もしい声が上がりました。その声をきっかけに意欲のある方を募り、令和3年4月、15名の女性消防団員が誕生しました。彼女たちは生真面目で責任感があり、男性団員と同様の活動をこなすほか、こども園等での予防啓発活動にも積極的で、消防団全体に活気を与えてくれる存在です。



女性団員の誕生(令和3年4月)



東日本大震災での炊き出し

3 東日本大震災を経験した消防団

私は約40年の団員生活の中で様々な経験をいたしました。立て続けに火災が発生し、年末年始返上の年もありましたが、我々の記憶に最も深く刻まれているのは東日本大震災での対応です。

平成23年3月11日。経験したことのないすさまじい揺れ、割れる地面、そして襲い来る津波。すべてが現実とは思われぬ状況の中、原子力発電所の事故が発生し、私たちはわが家に別れを惜しむ余裕もなく、着の身着のまま全町避難を余儀なくされたのです。その後は、一日一日を過ごすことに無我夢中でした。家族にも会えない状況の中、昼夜を問わず、行方不明者の搜索活動や安否確認、物資配給等にあたる日が続きました。

こんな時こそ活躍するのが消防団員の

本懐であると信じ、仲間とともに闘った日々は、今も我々の誇りでありますが、この経験を活かし伝え残したいと思えますし、震災を経て、今、強く願うことは、すべての方に「家族を大切にしたい」ということであります。

4 「地域のヒーロー」を目指して

私の消防団の理想像は「地域のヒーロー」です。「地域のヒーロー」になるためには、地域を知ること、把握すること、愛されることが必要だと思います。

そんな「地域のヒーロー」になるべく、微力ではありますが、檜葉町消防団の団長として出来ることから少しずつ始めることで、地域に愛されるヒーローになれるよう精進し、この大役を果たしていく所存です。

近年、地震や集中豪雨による自然災害が全国各地で発生しており、住民が地域防災力の中核である消防団へ寄せる期待はますます高まっています。そのような中で、住民の安心安全を確保するため、災害対応力の強化に取り組み、子どもたちが「やっぱり、父ちゃん、母ちゃん、かっこいい!!」と感じてくれるような、地域のピンチにすぐに駆け付けるヒーローを目指してまいります。



消防車両を連ねた防火パレード



「質の高い」消防団を 目指して」



大和市消防団 団長 小菅 実

1 大和市の紹介

私たちが活動している大和市は、神奈川県ほぼ中央に位置し、都心から40km圏内にあります。市域は南北に細長く、丘陵起伏がほとんどなく、面積は、27.09km²で、人口は約24万4千人(令和6年6月現在)です。

鉄道は、市の中央部を東西に相模鉄道本線、南北に小田急江ノ島線が走り、北部には東急田園都市線が乗り入れ、市域に8駅があります。また、道路網も国道16号線、246号線及び467号線のほか県道4線が縦横に走り、東名高速道路横浜町田インターチェンジにも近いなど、交通の利便性に恵まれています。

2 大和市消防団の紹介

大和市消防団は、昭和34年2月1日に13個分団409人の構成で発足し、令和6年

2月には、発足65周年の節目の年を迎えました。現在は、12個分団5班、定数250人、小型動力ポンプ付積載車17車両、消防団連絡車、消防団資機材搬送車を保有し各種の災害活動や地域の防災活動等に携わっています。

3 大和市消防団の活動

大和市消防団の主な活動は、従来からの任務である消火活動、人命救助活動は勿論のこと、台風やゲリラ豪雨などの自然災害に備え、二級河川が溢水した場合の河川巡視活動や避難誘導活動など地域に密着した活動を行っています。

しかし、全国的にも消防団員の確保が問題となっており、特に女性消防団員の入団率が低い状況です。消防団活動において、消火活動や救助活動を行う力強さも必要ですが、日頃から防災意識の普及





や、災害時の応急手当などにおいて、働いている方も、学生の方も、主婦の方も、多くの女性のチカラをそれぞれに合った形と活動により、女性団員の必要性や重要性を訴えていきたいので、是非、消防団の入団をお願いいたします。

また、毎年恒例の消防出初式では、恒例の一斉放水で消防団の組織力や放水技術力のアピールを行っていますが、この数年間天候にも恵まれ、見事な虹の輪が広がり、来場者から大きな歓声が上がりました。

4 終わりに

近年の消防を取り巻く環境は、著しく変化し、線状降水帯発生による豪雨や竜巻など、自然災害が激甚化しております。このような状況下でも、我々、消防団は市民が安全で安心に暮らせるよう任務を全うすることが大切です。そして、最後になりますが、わたくしは今年4月から、県央9都市による消防団長会の会長に任命されました。今後の活動は市内に止まらず、広域での連携が必要不可欠と感じております。近隣都市が一致団結し結束力を高め、より質の高い消防団を目指していきたいと思います。



「地域防災の要を 目指して」



観音寺市消防団 団長 豊田 敏計

1 観音寺市の紹介

観音寺市は、香川県の最西端、愛媛県と徳島県との県境に位置し、西は瀬戸内海の燦灘に面し沖合には伊吹島等の島しょを有しています。瀬戸内国立公園に含まれる名勝琴弾公園には、東西122メートル南北90メートル、周囲345メートルにわたる巨大な寛永通宝の砂絵があり金運上昇のスポットとして注目を集めています。また、市の北側に位置する高屋神社では天空の鳥居が、南側の讃岐山脈に位置する雲辺寺では天空のブランコが人気を博しており、一年を通して多くの観光客が訪れています。さらに、大野原町の豊稔池は、日本で2カ所しかないマルチプルアーチ構造のダムであり、農業用水として使用されるだけでなく中世ヨーロッパの古城を偲ばせる景観も高く評価され、国の重要文化財に指定されています。

近年では、交通の利便性を高めるため

既存の大野原インターチェンジに加え、一ノ谷地区にも新たにスマートインターチェンジを建設中です。また、豊浜町に新しい道の駅の整備を目指しており、より多くの人に訪れてもらうための施策を行っています。

2 観音寺市消防団の概要

観音寺市消防団は、平成17年10月11日の市町合併と同時に1団8方面隊22分団で発足し、現在は条例定数713名に対し、実員数667名で地域の安心、安全のため消防団活動を行っています。消防車両等はポンプ自動車21台、小型動力ポンプ27台、積載車3台を保有しており、実情に応じて定期的に更新しています。

また、観音寺には全国で最初に女性消防団員が誕生した伊吹分団があります。現在でも9名の女性消防団員が活躍しています。



観音寺市のマスコットキャラクター「銭形くん」



女性団員による放水訓練



竹梯子操法訓練

伊吹島はいりこが有名で、漁のシーズンになると大半の男性団員が漁業に従事するため、島に残る女性団員が中心となって防火活動等に取り組んでいます。

3 観音寺市消防団の活動

災害へ迅速に対処するため、大規模火災を想定した中継訓練や、各個訓練など基本的な動作を行う新入団員向けの訓練、無線運用や指揮能力向上を図る幹部向けの訓練等それぞれの階級に合わせた教養訓練を年間を通して計画的に行っています。また、既存の訓練の反復だけでなく毎年内容の見直しも行っており、今年度は島田折り作成のほか救急救命講習の受講等も実施しています。この他に操法訓練へも力を入れており、県操法大会に向けての訓練や、梯子操法訓練、部隊訓練、一斉放水など出初式に向けての訓練を通して団員の団結や個々の技術の向上を図っています。

また、毎年秋には無火災を願う祈願式や防火パレード、年末には各分団が管轄地域を巡回する夜警を行っており、市民への防火啓発活動を行っています。



島田折り作成訓練

4 おわりに

今年1月1日に発生した能登半島地震においては、多くの方々が犠牲となりました。亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

本市においても、今後30年以内に発生すると予想されている南海トラフ地震に備え、地域住民の安心安全を確保するための消防団として一致団結し邁進していきます。



シンフォニー（静岡県） 「これならできる」 ～いざという時の備え～

牧之原市消防団 女性消防隊 班長 畑 しおり

私たちの住む牧之原市。人口約4万3千人。静岡県の中部地区の南に位置し、牧之原大茶園を背に、東に駿河湾を望む緑豊かな市です。

平成26年4月に7人の女性消防団員で発足し、現在18名で活動をしています。

防火や救命等の啓発活動を中心とし、仕事をしながら自分の空いた時間を使い、市民の安心安全な生活のための活動を行っています。

牧之原市女性消防隊では、普通救命講習の受講や実際に教えることができる応急手当普及員の資格取得、市内の保育園幼稚園を対象とした花火教室といった啓発運動をメインとして活動をしています。

そんな中、女性消防隊として「ほかになんnaことができるか？」考える機会があ

り、隊員の関心が強かったのが女性ならではの被災リスクについてでした。そこで令和4年度に新たに組み込んだのがオリジナルのハンドブック作成です。このハンドブックは、声が届きにくい女性特有の被災リスクについて性別を問わず知っていただくことを目的として作成しました。



普通救命講座



心臓マッサージ



花火教室



これなら戸Book

まずは、女性自身が有事に備える意識づけをすることと、性別や年齢等関係なくみんなで支え合える環境をつくっていただくことが大事だと考えております。そのため、防災意識の高い人だけが読んで取り組みそうなものではなく、皆さんが日常生活の中で気軽に「これならできそう戸」と思って取り組みそうな内容を表したタイトル、『これなら戸Book』が誕生しました。

デザインについては、女性の被災リスクについて考えることを目的に作成しま

したが、性別関係なく手に取っていただき読んでいただきやすいようなデザインになっています。

女性の被災リスクを考えた時、「子ども」「生理」「プライベート空間」(避難所のプライバシー、女性スタッフの配置、性被害等)「その他」(トイレ、応急処置等)の4つのカテゴリに分けられました。

被災時に、自身が最低限必要なものを5つ選ぶページ、日ごろからできること、便利なアプリ紹介、トイレ問題、子どもと一緒にできること、子どもが安心して過ごせる避難環境づくり、生理の知識や備えについて、性被害への対策、応急処置や重いものの運び方、非常食アレンジと盛りだくさんの内容となっています。

ハンドブックを手にとっていただいた方の中に、「自分には関係がない」と思うようなことがあったりすると思いますが、ページが進むにつれて女性が困りやすいこと、かつ、本人だけでは解決しづらいことになっています。何か行動を起こして助けるまではいかなくても、困りそうなことを知っておいていただくだけで、有事の際の不安の解消につながります。



これなら戸Book説明会



地域に理解される消防団を目指して

滋賀県 日野町消防団

1 日野町の紹介

日野町は、滋賀県の南東部、鈴鹿山系の西麓に位置し、町の東にそびえる霊峰・綿向山や町の花である「ほんしゃくなげ」が咲き誇る、無限の大地が育んだ自然環境に恵まれている人口約2万人の町です。

近江商人の基礎を確立した日野商人を生んだ歴史と文化が息づいており、多くの文化財や花・水・緑・光のある風景が人々の心を癒します。町では、先人たちが培ってきた歴史や風土を礎として、福祉の向上、青少年の健全育成、安心・安全で元気な町づくりに取り組んでいます。

2 日野町消防団の紹介と現況

日野町消防団は1団3分団で構成され、団員定数を185名に定め、令和6年4月1日現在185名が在籍し、充足率は100%となっています。操法においても、有事の際に迅速かつ安全に活動をするため訓練を行い、平成30年には小型ポンプの部で全国大会初出場・初優勝を果たすと、令和4年にもポンプ車の部で全国大会に出場しました。

消防団員の確保については、日野町消防団においても大きな課題であり、少子高齢化や人口減少などの影響により、年々消防団員の確保が難しくなっています。

3 取組内容

1. 消防団広報誌の発刊

日野町消防団では、住民の皆さまに消防団の活動について理解を深めていただくとともに、興味を持っていただくため、消防団広報誌を年2回発行しています。平成21年10月に第1号を発行してから、これまでに第28号までの広報誌を発行し、様々な消防団活動や、団員の生の声などを住民の皆さまに届けてきました。発行した広報誌は、町内各公民館で掲示される他、各自治会を通して全戸に配布しています。

2. 地域行事での消防団活動PR

地域の祭りや、行事の際には消防ポンプ車の展示や活動PRを行い、地域の中で消防団の存在感が高まるように積極的に地域行事に参加しています。特に、小学生の通学合宿では消防団が消防・防災についての学習会を行うのみではなく、実際に放水を体験してもらうなど、楽しく消防について学んでもらうことで、消防に対する興味・関心を高められるように活動しています。このような活動により、消防団に興味を持った子どもたちが増えることで、将来、消防団員として活躍



消防団広報誌

する人材が一人でも増えるのではないかと考えています。また、子どもたちの親にとっても消防団に興味・関心を持っていただく良い機会にもなっています。

4 結びに

地域住民からの理解と協力を得ることで、消防団活動はより活性化していくのではないかと考えています。消防団員のなり手不足は深刻な問題であり、様々な要因が起因しているものですが、消防団が実際どのような活動を行っているのか知らない人も多く、昔からのイメージや悪評だけが、広がっている様に感じます。そのようなイメージを払拭できる様、様々な方法を模索しながら積極的に消防団活動の発信・PRに取り組んでいきます。

また、そのためにも消防団の処遇改善や消防団活動を見直し、より団員が活動しやすい消防団となることで、地域に理解される消防団を目指していきます。



放水体験の様子

がんばる消防団の味方！ 『全国消防団応援の店』を紹介します

(公財)日本消防協会 福祉部

●『全国消防団応援の店』とは？

地域のために活動されている消防団員の皆様への感謝の気持ちから、地元の消防団員だけでなく、全国の消防団員を対象に様々なサービスを行ってくださる店舗のことです。

平成28年7月にスタートしたこの取り組みは、約8年の歳月を経て、今では登録数5,181店(令和6年8月13日現在)にまで増加しました。これも皆様の多大なご理解・ご協力のおかげです。

●どうやって利用するの？

日本消防協会のホームページに登録店舗のリストを公開しております。皆様のお近くに登録店舗はございますか？

それぞれサービス内容、利用条件等は異なりますので、まずはリストを確認し、目的に合う店舗をお探しください。

身近な
『全国消防団応援の店』を
見つけよう！



●登録店舗をご紹介します！

今回ご紹介させていただくのは、群馬県前橋市の3店舗です。前橋市は首都圏からのアクセスも良く、美しい自然や温泉、充実した子育て支援・教育・医療環境が整った街です。また食文化も豊かで、美味しい地元グルメも堪能できます。

群馬県には『全国消防団応援の店』の登録が200店舗以上あり、その中で前橋市は34店舗です。官民一体となって登録店舗数を増やすことに力を入れており、その甲斐もあって多くの店舗の方々に取り組みをご理解いただき、「地域のために努力している消防団員の皆さんを応援しよう！」という心意気のもと、ご登録いただいています。

是非とも消防団員の方々に積極的に利用していただき、街を盛り上げていただきたいと思います。



『全国消防団応援の店』の取材にお伺いします！

消防団員さんとの交流で盛り上がっているお店、新しく登録したお店などをご紹介します。(自薦、他薦問いません)

問合せ先

公益財団法人 日本消防協会 福祉部

TEL 03-6263-9604

mail ouen@nissho.or.jp



前橋自動車教習所

Read the QR code!

サービス内容

全車種免許取得費用より 10,000 円の割引
※審査は 5,000 円の割引



登録のきっかけ

地域貢献活動の一環として登録することとしました。日頃から災害発生に備えてご苦労されている消防団員の皆様へ、運転免許の新規取得をお手伝いさせていただき、職業や趣味の幅を広げることに繋がればと考えます。

おすすめ・アピールポイント

私たちは常に親切、丁寧、優しい仕事をモットーに掲げ業務に当たっています。消防団員の皆様の免許取得をサポートし、スキルアップやプライベートの充実に繋がれば幸いです。第一種免許はもちろん、第二種免許やフォークリフト講習等、様々な「安全」教育に力を入れています。単なる免許取得ではなく、安全運転、安全意識の習得にもお役に立てると考えます。



韓流市場

Read the QR code!

サービス内容

お会計から 3 % 割引(お酒以外)



登録のきっかけ

消防団応援の店を公募しているのを新聞で知り、地域に根ざした店として少しでもお役に立てればと思い登録しました。

おすすめ・アピールポイント

前橋の街中で韓国人夫婦が長く営んでいるお店です。若年層からお年を召された方々にも喜ばれる商品をラインナップしています。ピヨット(韓国のヨーグルト)、バズリ菓子、K-POPグッズ、キムチ、ラーメン、土日販売の手作りキンパ、チヂミがおすすめです。インスタフォローでプレゼントを差し上げております。韓国の情報も積極的に発信しており、事前にご相談いただければ、韓国で開催されるK-POPアイドルのコンサートチケットを手配することも可能です。



POPS 前橋

Read the QR code!

サービス内容

コース料理 5 % 割引



登録のきっかけ

多くの人にお店を知ってもらい、消防団員の皆様のご利用のきっかけになればと思い登録しました。

おすすめ・アピールポイント

ハンバーグ、ステーキなどのお肉料理、ピザ、パスタなどのイタリアンメニューがおすすめです。団体でのご利用も出来ますので、消防団の各種訓練を行った後など、団員の皆さんで食事をされる際の利用にもぜひご検討ください。



ぼうさいこくたい2024 in 熊本 令和6年10月19日・20日開催

(公助)日本消防協会



内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議が主催する「ぼうさいこくたい2024 in 熊本」が令和6年10月19日(土)、20日(日)に、熊本県熊本市で開催されます。

このイベントは、「自助・共助」、「多様な主体の連携」及び「地域における防災力の向上」を促進するため、国民の防災意識の向上、災害に関する知識や経験等の共有、

防災に取り組む方々の連携構築を図ることを開催趣旨としており、今年で9回目の開催となります。昨年と同様、現地参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリッド形式で開催されます。毎年多くの団体・機関が出展し、取組・知見を発信・共有する日本最大級の防災イベントです。

入場料は無料で一般の方から自治体・企業・防災専門家まで、こどもから大人までどなたでもご参加いただけます。

開催概要

- **名 称** 防災推進国民大会 2024
- **テ マ** 復興への希望を、熊本から全国へ ～伝えるばい熊本！がんばるばい日本！～
- **主 催** 防災推進国民大会 2024 実行委員会 (内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議)
- **協 力** 熊本県、熊本市
- **開催趣旨** 「自助・共助」、「多様な主体の連携」及び「地域における防災力の向上」を促進するため、国民の防災意識の向上、災害に関する知識や経験等の共有、防災に取り組む方々の連携構築を図る。
- **開催日時** 2024年10月19日(土) 10:00～18:00 (予定)
10月20日(日) 10:00～15:30 (予定)
- **開催会場** 熊本城ホール(熊本市中央区桜町3-40)
熊本市国際交流会館(熊本市中央区花畑町4-18)
花畑広場(熊本市中央区花畑町7-10)
- **対象者** 防災に関心のある方、学びたい方
- **入 場 料** 無料
- **出展タイプ** セッション、ワークショップ、ブース展示、ポスター展示、屋外展示、ステージ発表、出展団体オリジナル企画を予定
- **ウェブサイト** <https://bosai-kokutai.jp/2024/>
※過去の大会の概要も見ることができます。

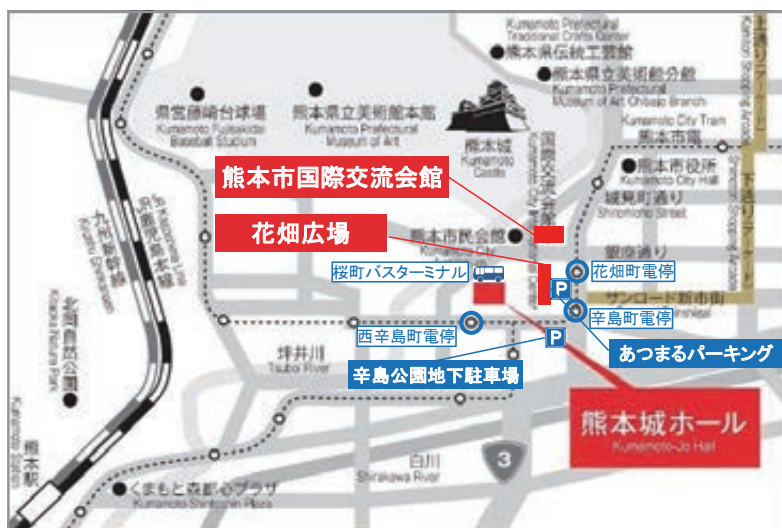
ぼうさいこくたい



(公財)日本消防協会は、このイベントに参加し、セッション「これからの大規模水害対策についてー熊本水害の体験からー」を開催します。

開催日時	現 地：令和6年10月20日(日) 12:30~14:00 オンライン：上記時間に全国配信(後日、録画配信有り)
開催場所	熊本県熊本市 熊本城ホール2階 シビックホール北
開催テーマ	これからの大規模水害対策についてー熊本水害の体験からー
開催趣旨	地球環境の変化を背景とするさまざまな大規模災害が発生しており、国民の安全を守り抜く防災対策が益々重要となっている。2024年の熊本大会は、そのような問題意識のもとに、多方面からの協議、さまざまな発表を行うこととしているが、日本消防協会が行うシンポジウムは、熊本水害の体験をふり振り返りながら、今後の大規模水害対策のあり方について協議を行うこととする。 令和2年の熊本水害は、大量の降雨により、各地に大きな被害をもたらした。その後、「緑の流域治水」などの防災対策が実施されているが、それら、いろいろな経過を含めて協議し、今後の大規模水害対策の一層の充実を期するものである。
出演者 (五十音順)	小谷 敦 氏 (総務省消防庁国民保護・防災部長) 竹内 裕希子 氏 (熊本大学 教授) 橋本 誠也 氏 (熊本県知事公室 危機管理監) 松岡 隼人 氏 (人吉市長) 宮本 光次郎 氏 (八代市消防団方面副隊長 副団長)
司 会	秋本 敏文 氏 (公益財団法人 日本消防協会会長)

交通の御案内



〈各会場までの交通アクセス〉

■熊本空港より

- 車で約45分
- 空港リムジンバスで約45分～
桜町バスターミナル下車

■九州自動車道より

- 熊本 I.C より車で約40分

■熊本駅より

- 熊本市電で約15分～西辛島町、辛島町または花畑町下車
- 都市バス、九州産交バス、熊本電鉄バスで約10分～
桜町バスターミナル下車
- 車で約10分

第52回全国消防救助技術大会について

(一財)全国消防協会

1 はじめに

一般財団法人全国消防協会では、令和6年8月23日に、千葉市消防局主管により千葉縣市原市(陸上会場・千葉県消防学校)、習志野市(水上会場・千葉県国際総合水泳場)において、第52回全国消防救助技術大会を開催しました。

この大会は、救助技術の高度化に必要な基本的要素の練磨を通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、全国市民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的として毎年開催しています。

今大会スローガンである「**魅せろ ～I CHIBA Nへの挑戦～**」は、【要救助者を1番に思い救助活動にあたる隊員達の熱い戦い。「安全・確実・迅速」を極めた隊員達が全国各地から集まり、千葉県で「1番」を目指す。洗練されたその技を千葉県で魅せてほしい】という思いを表現しています。



2 大会を振り返って

大会当日は好天に恵まれ暑さ厳しい中、開会式は、午前9時から陸上の部会場である千葉県消防学校で行われ、全国9地区支部から選抜された出場隊員が入場し、白井千葉市消防局長の開会宣言により第52回全国消防救助技術大会が開幕しました。

続いて、消防殉職者に対する黙とう、国旗・大会旗の掲揚後、一般財団法人全国消防協会の吉田会長の挨拶に続き、開催主管都市の神谷千葉市長が挨拶されました。ご来賓からは、池田消防庁長官、秋本公益財団法人日本消防協会会長、熊谷千葉県知事よりご祝辞をいただきました。その後、大会審判長である岸本北九州市消防局長の審判長指示を受け、千葉市消防局の秋山隊員が出場隊員906名を代表して隊員宣誓を行うと、いよいよ本番という雰囲気が広がり、気温の上昇と選手たちの高揚感が相まって、会場は熱気に包まれました。

訓練開始に先立ち、オープニングイベントとして、千葉ロッテマリーンズマスコットの「マーくん」と公式チアパフォーマー「M☆Splash!!」のパフォーマンスが披露され会場を一体感で包み込み、大いに大会会場を盛り上げました。

陸上・水上の部、各7種目、計14の訓練種目では、全国から選抜された救助の精鋭が磨き抜かれた救助技術を存分に披露しました。

技術訓練では、「変化する社会情勢に対応した救助活動」をテーマに、陸上会場では常滑市消防本

部、水上会場では熊本市消防局がそれぞれに創意工夫を凝らした救助技術を披露し、参加隊員は、趣向を凝らした訓練想定と高度な救助技術を細部にわたるまで吸収しようと、真剣なまなざしで訓練を見学していました。

陸上の部会場内に設けられたイベントエリアでは、千葉県消防学校が保有する特殊消防車両の展示や起震車を活用した地震体験など、さまざまなコーナーやイベントが用意されており、大人から子どもまで大勢の方々と賑わいました。

大会は事故なく進行し、陸上の部・水上の部ともに全国から選ばれた隊員たちの日頃の訓練成果が惜しみなく発揮されました。会場を埋め尽くした見学者は、隊員たちが訓練に取り組む姿に見入り、客席からは歓声と応援の拍手が鳴り止みませんでした。

全てのプログラム終了後、陸上の部会場において閉会式が行われました。

はじめに、各訓練種目別に表彰が行われ、吉田大会会長から表彰状が手渡されました。吉田大会会長の講評後、国旗・大会旗の降納に続き、大会旗の引き継ぎが行われ、白井千葉市消防局長から次期開催主管消防本部の栗岡神戸市消防局長へ大会旗が手渡されました。

引き継ぎを受けた栗岡神戸市消防局長から「白井千葉市消防局長から大会旗の引継ぎをさせていただきました。兵庫県での開催は2015年以来、10年ぶりの開催となります。阪神・淡路大震災以降、全国で多くの大規模災害が発生しています。今年の元日には能登半島地震が発生しました。大規模災害が発生した被災地では、全国各地から派遣された緊急消防援助隊の活動や消防本部への支援を通じて消防職員同士の絆も生まれています。阪神・淡路大震災から30年を迎える来年の大会では、被災された地域の消防本部の皆様にも多くご参加いただき、絆を一層深められる大会となるよう、職員一丸となり、お迎えしたいと存じます。」と第53回全国消防救助技術大会開催に向けた決意を述べられました。

最後に、白井千葉市消防局長の閉会宣言により、第52回全国消防救助技術大会は閉幕となりました。

3 終わりに

残暑が続く中、多くのご来賓と市民の皆様など、延べ約10,000人の方々にご来場をいただき、大会を終えることができました。

本大会の開催に際しまして、多大なるご支援、ご尽力をいただきました開催主管消防本部である千葉市消防局をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げますとともに、将来の隊員の育成にも引き続きのご理解ご協力をお願い申し上げます。



一般財団法人全国消防協会吉田会長



公益財団法人日本消防協会秋本会長



選手宣誓：千葉市消防局秋山隊員



オープニングイベント M☆Splash!! ①



オープニングイベント M☆Splash!! ②



障害突破



ロープブリッジ渡過



ロープ応用登はん



陸上の部技術訓練：常滑市消防本部①



陸上の部技術訓練：常滑市消防本部②



水中検索救助



溺者搬送



複合検索



水上の部技術訓練：熊本市消防局①



水上の部技術訓練：熊本市消防局②



大会旗→千葉市消防局長から神戸市消防局



活動事例



滋賀県

草津市消防団 第56回草津宿場まつりでブース出展

令和6年4月28日(日)、草津川跡地公園de愛ひろば(滋賀県草津市)で開催された【第56回草津宿場まつり】にブース出展し、湖南広域消防局職員と地元の草津市消防団員とともに防火防災についての広報活動を行いました。

消防を身近に感じていただく機会を通して、防火防災への関心が高まるように今後も活動していきます。



愛媛県

松山市消防団 島しょ部の消防団教育訓練会の開催

松山市消防団では、令和6年6月15日(土)、島しょ部を管轄する団員の教育訓練会を開催しました。

訓練会には、6島から72名の団員が参加し、今年5月に島しょ部の消防団に配備のAEDを更新したことから、納入業者と女性分団員を講師に迎え、応急手当の訓練を行いました。

今後、映像通報システム(ライブ映像119)を活用するなど、島しょ部の消防団活動を支援する体制を整え、災害対応力の向上に努めていきます。



熱中症による救急搬送の状況及び 予防啓発の取組について

総務省消防庁 救急企画室

1 はじめに

消防庁では、平成20年から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員の調査を行っており、調査開始以降最多の救急搬送人員を記録した平成30年には全国で約95,000人の方が熱中症により救急搬送されています。調査は、例年5月1日を含む週の月曜日から9月30日を含む週の日曜日までの期間で実施しており、今年度は、4月29日から開始し、8月11日までに69,423人（※速報値）の方が熱中症で救急搬送されました。今年度は6月、7月ともに調査を開始して以降、それぞれの月で過去2番目の搬送者数を記録し、例年と比較しても多くの方が熱中症により搬送されています。

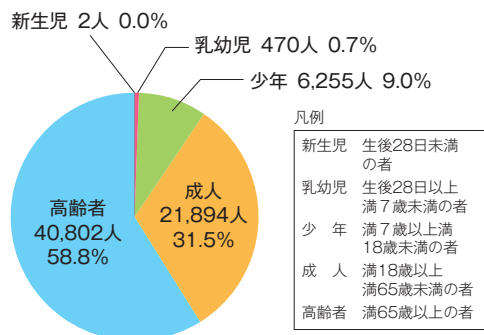
2 熱中症による救急搬送状況

① 年齢区分ごとの救急搬送人員（図1）

4月29日から8月11日までの熱中症による救急搬送人員の合計69,423人のうち、高齢者が40,802人（58.8%）と最も多く、次いで成人21,894人（31.5%）、少年6,255人（9.0%）などとなっています。約6割を占める高齢者は暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくい傾向があるため、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

図1 年齢区分別（構成比）

令和6年 総搬送人員 69,423人

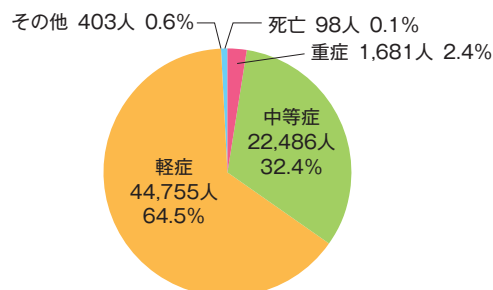


② 傷病程度ごとの救急搬送人員（図2）

4月29日から8月11日までの熱中症による救急搬送人員の合計69,423人のうち、軽症が44,755人（64.5%）と最も多く、次いで中等症22,486人（32.4%）、重症1,681人（2.4%）、死亡98人（0.1%）などとなっており、例年と比べ構成比に大きな変化はありませんでした。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化します。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。

図2 初診時における傷病程度別

令和6年 総搬送人員 69,423人



凡例

死	初診時において死亡が確認されたもの
重症(長期入院)	傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
中等症(入院診療)	傷病程度が重症または軽症以外のもの
軽症(外来診療)	傷病程度が入院加療を必要としないもの
その他	医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、その他の場所へ搬送したもの

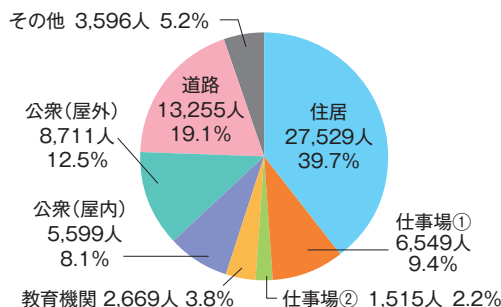
※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれる。

③ 発生場所ごとの救急搬送人員（図3）

4月29日から8月11日までの熱中症による救急搬送人員の合計69,423人のうち、住居が27,529人（39.7%）と最も多く、次いで道路13,255人（19.1%）、公衆出入場所（屋外）8,711人（12.5%）、仕事場①6,549人（9.4%）、公衆出入場所（屋内）5,599人（8.1%）などとなっており、例年と比べ構成比に大きな変化はありませんでした。

図3 発生場所別(構成比)

令和6年 総搬送人員 69,423人



凡例

住居	(敷地内全ての場所を含む)
仕事場①	(道路工事現場、工場、作業所等)
仕事場②	(田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ)
教育機関	(幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)
公衆(屋内)	不特定者が出入りする場所の屋内部分(劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅(地下ホーム)等)
公衆(屋外)	不特定者が出入りする場所の屋外部分(競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(屋外ホーム)等)
道路	(一般道路、歩道、有料道路、高速道路等)
その他	(上記に該当しない項目)

④ 都道府県別の合計(図4)

4月29日から8月11日までの熱中症による救急搬送人員の合計69,423人のうち、東京都が6,050人と最も多く、次いで大阪府5,103人、愛知県4,611人、埼玉県3,951人、神奈川県3,495人となっています。また、昨年度と比較(5月1日から8月11日)すると、7,167人の増加(+11.5%)となりました。

⑤ 週別の推移(図5)

救急搬送人員は4月29日から300~2,000人前後で推移していましたが、7月1日の週から9,000人以上に増加し、特に、7月22日の週及び7月29日の週は12,000人以上となっています。

図4 都道府県別熱中症による救急搬送人員

前年同時期との比較(累計: 4月29日から調査開始)

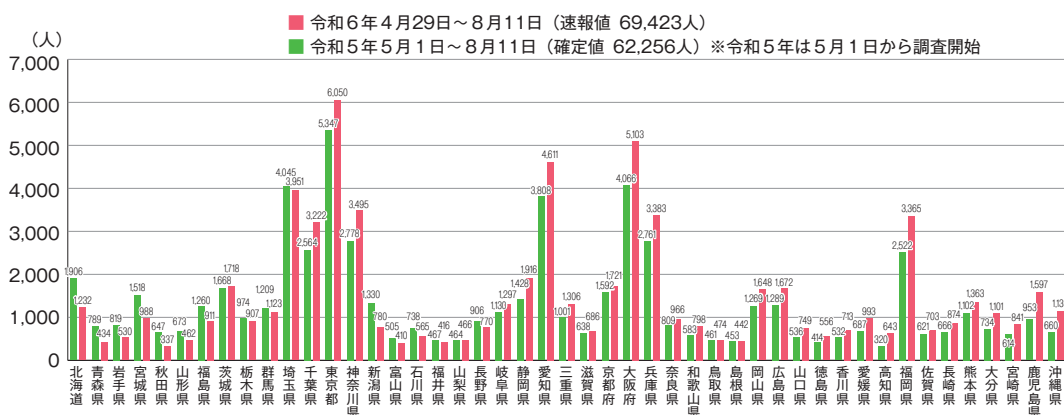
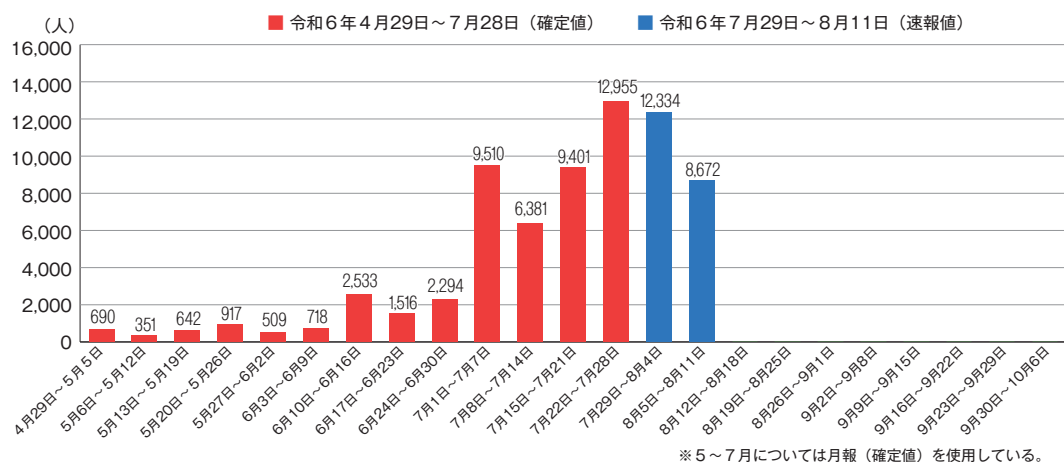


図5 令和6年熱中症による救急搬送状況(週別推移)



※5~7月については月報(確定値)を使用している。

3 全国消防イメージキャラクター「消太」を活用した熱中症予防広報の実施

消防庁では、熱中症予防啓発として従来から、熱中症による救急搬送人員の調査と公表、「ポスター」や「動画」、「リーフレット」の作成、X（旧ツイッター）による情報発信などを通じ、住民の皆様にも広く注意喚起を図るとともに、全国の消防本部が行う予防啓発活動を支援しております。

今年度は、熱中症の予防法や熱中症になりやすいとされることもや高齢者への呼びかけに加えて、熱中症特別警戒アラート発表時の注意喚起をテーマにした、熱中症予防啓発ポスターを作成しました。



【ポスター】



【動画】

4 熱中症予防のポイント

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。以下の項目を心がけて下さい。

- ・ 涼しい服装、日傘や帽子で暑さを避けましょう。
- ・ のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をしましょう。
- ・ 部屋の温度に注意し、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。
- ・ 熱中症警戒アラート発令中は外出をできるだけ控え暑さを避けましょう。
- ・ 夜間も熱中症に注意が必要です。睡眠前の水分補給を心がけましょう。

【参考】

熱中症予防情報サイト 普及啓発資料(環境省)
https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_pr.php

5 おわりに

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。また、周囲の気遣いで熱中症になりやすいとされることもや高齢者を守ることができます。

消防庁では、全国の消防本部と連携をとりながら、引き続き熱中症予防啓発に努めていきます。

消防庁熱中症情報

<https://www.fdma.go.jp/disaster#anchor-07>

※ 熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています。

消防団の組織概要等に関する調査 (令和6年度)の結果

総務省消防庁

総務省消防庁では、全国の市区町村を対象に、令和6年4月1日現在の消防団の組織概要等に関する調査を行い、とりまとめたので公表します。

上記調査の結果、消防団員数は約74万7千人(対前年比約▲1万6千人)と、依然として減少しております。一方で、入団者数については、入団促進に向けて重点的に取り組んできた女性団員や機能別団員の増加等に伴い、2年連続で増加となっております。

また、消防団員の処遇改善に係る対応状況については、年額報酬、出動報酬及び各報酬の支給方法について基準を満たす市区町村が90%を超えました。

総務省消防庁では、こうした状況を踏まえ、引き続き、消防団員の確保に向け、広報の充実や処遇改善を更に推進するとともに、企業等との連携強化、シニア層の活躍促進、女性団員が活動しやすい環境づくり、消防団員の負担軽減など働き方改革につながるノウハウ等が記載されたマニュアル等を通じた各地域の優良事例の横展開など、消防団の更なる充実に向けた取組を進めてまいります。

- **調査対象** 全国の市区町村(消防団事務を実施している消防本部、一部事務組合を含む。)
- **調査時点** 令和6年4月1日現在
- **調査結果** 消防団の組織概要等に関する調査結果(概要)

資料の入手方法

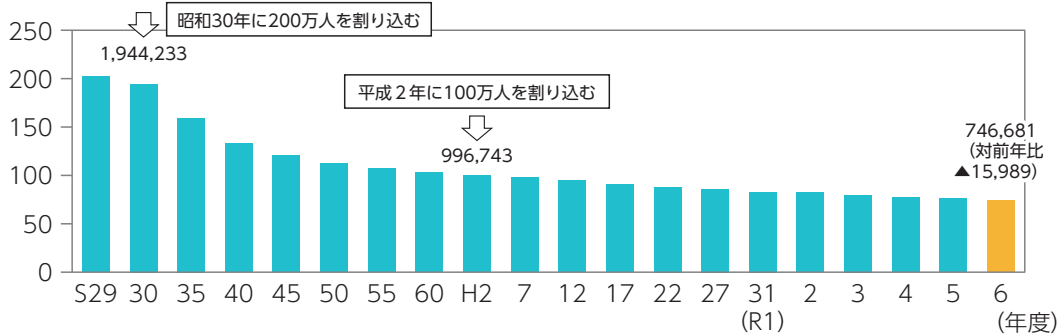
総務省ホームページ(<http://www.soumu.go.jp/>)の「報道資料」欄及び消防庁ホームページ(<http://www.fdma.go.jp/>)の「報道発表」欄に掲載。

消防団の組織概要等に関する調査の結果(令和6年度)

- R6.4.1時点の消防団員数は746,681人(▲15,989人(▲2.1%)。入団者数:40,082人、退団者数:56,071人)
- 重点的に取り組んできた女性団員、学生団員および機能別団員については増加傾向。
 - 女性団員 28,595人(+641人(+2.3%))
※女性団員がいる消防団数は1,746団(+41団)
 - 学生団員 7,122人(+560人(+8.5%))
※学生団員がいる消防団数は862団(+32団)
 - 機能別団員 37,580人(+2,890人(+8.3%))
※機能別団員制度750市区町村で導入済(+45市町村)

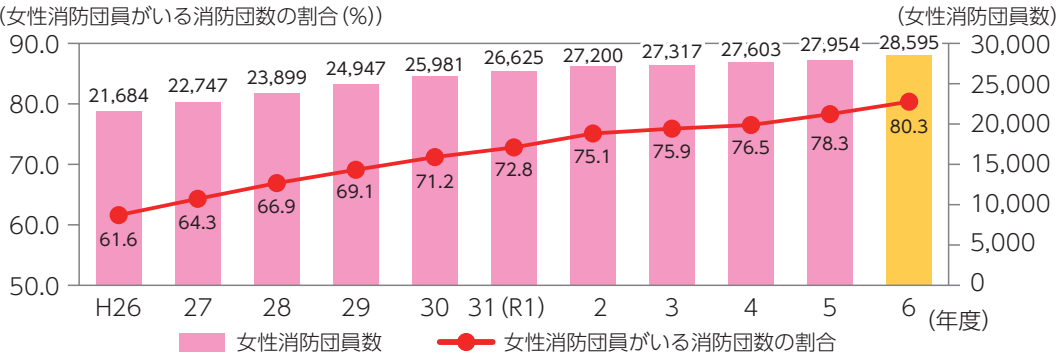
1 消防団員数の推移

(消防団員数(万人))



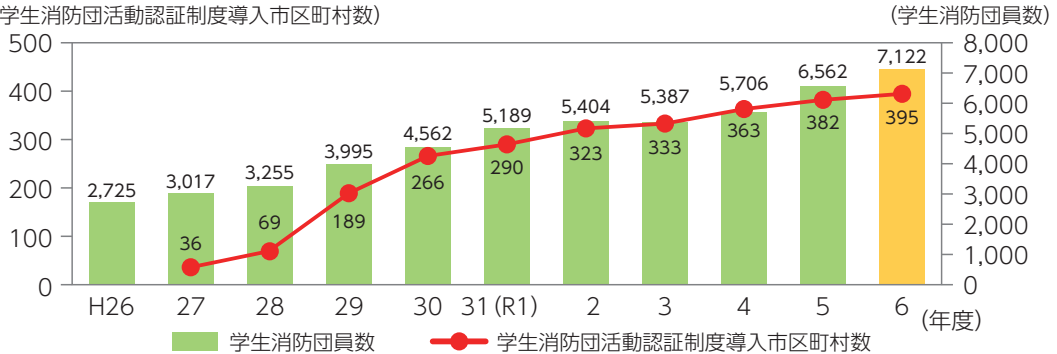
2 女性消防団員数の推移

(女性消防団員がいる消防団数の割合(%))



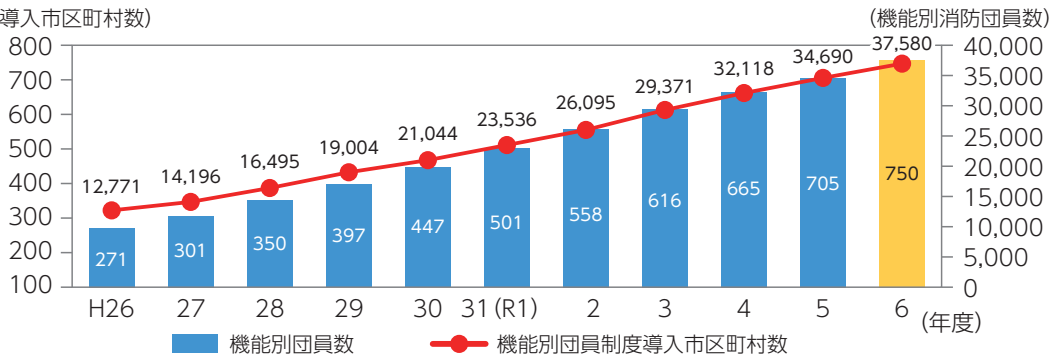
3 学生消防団員数の推移

(学生消防団活動認証制度導入市区町村数)



4 機能別消防団員数の推移

(導入市区町村数)

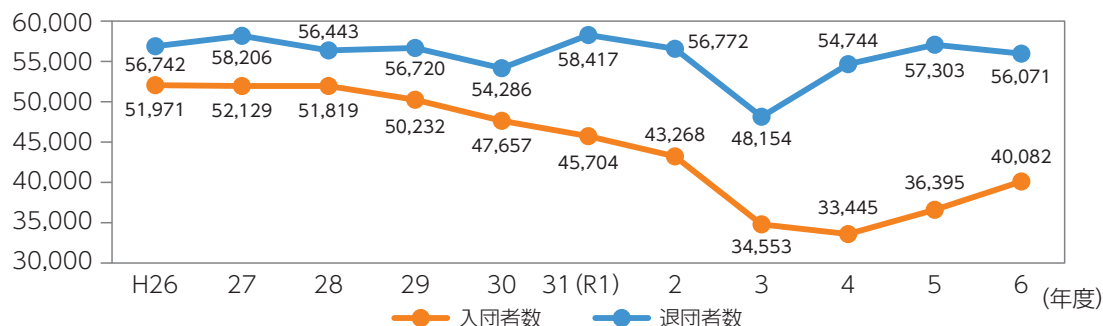


●消防団員数は依然として減少傾向にあるものの、退団者数は3年ぶりに減少し、入団者数は2年連続の増加となった。(下図①)

●年齢階層別に消防団員数を見ると、若年層の団員構成率が減少しており、30代以下は4割弱程度(35.3%)にとどまる。(下図②)

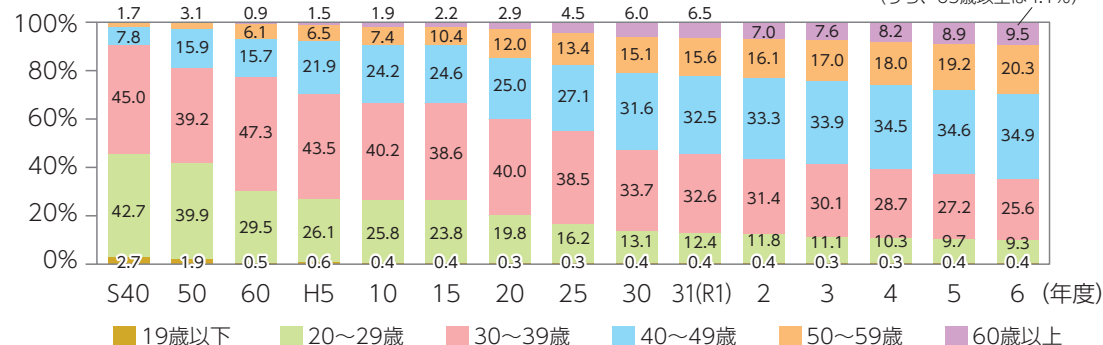
①入団者数及び退団者数の推移

(団員数(人))



②年齢階層別消防団員数の推移

(うち、65歳以上は4.1%)

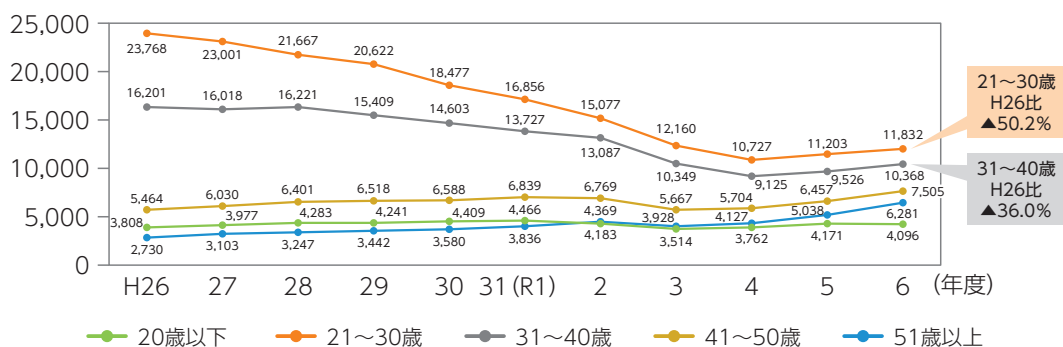


●年齢階層別に入団者数を見ると、20歳以下の階層を除き増加傾向にある。

特に、入団者数の減少が続いていた21～30歳及び31～40歳については、2年連続の増加となっている。

年齢階層別入団者数の推移

(団員数(人))



令和5年中に発生した製品火災に関する調査結果

総務省消防庁 予防課

1 製品火災対策の推進について

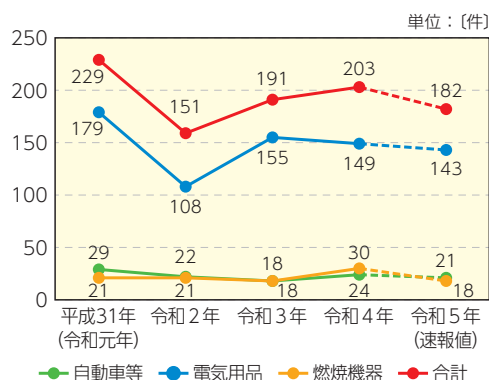
近年、製品事故に対する国民の関心は高くなっており、それに伴い、消費者の視点に立った行政サービスの実現が強く求められています。このような状況を踏まえ、平成21年9月に内閣府の外局として消費者庁が発足し、消費者安全法が施行されて以降、製品事故対策による消費者の安心・安全の確保は、より政府全体の重要課題として推進されてきました。

消防庁におきましても、自動車等、電気用品及び燃焼機器といった国民の日常生活において身近な製品が発火源となる火災について、情報の収集を行い、四半期ごとにその内容を公表するとともに、当該情報を関係機関と共有し、連携することにより、製品火災対策に継続して取り組んでいます。

2 令和5年中に発生した製品火災に関する調査結果について

令和5年中に発生した製品火災（自動車等、電気用品及び燃焼機器の不具合により発生したと消防機関により判断された火災）について、製品ごとの発生件数※1について図及び表1のとおり取りまとめました。

図：最近5年間における製品火災件数の推移



製品火災は自動車等が21件、電気用品が143件、燃焼機器が18件となっています。

なお、電気用品の火災のうち最も多く発生しているのはバッテリー、燃焼機器の火災のうち最も多く発生しているのはガストーチバーナーでした。

※1 令和5年の件数は令和6年5月31日時点の速報値。このほかに消防機関が出火原因を調査中のものが87件ある。以下同じ。

表1：令和5年中の製品火災の調査結果

単位：[件]

	自動車等	電気用品	燃焼機器	全 体
製品火災	21	143	18	182
製品の不具合により発生したか否か特定に至らなかった火災	283	635	75	993

※1 使用者の使用方法の不良及び自然災害に起因する火災は、本調査で集計する製品火災には含まれない。

※2 表1のほかに令和5年中に発生した製品火災で、消防機関が出火原因を調査中のものが87件ある。

3 今後の取組について

製品火災対策を推進し、類似火災の発生を防止するためには、製品火災の情報を広く国民に周知するとともに、消防機関が行う火災原因調査等により製品に係る火災の出火原因を究明し、出火原因に応じた火災の再発防止対策を講ずることが大変重要です。このため、消防庁では、製品火災に関する調査結果を公表するとともに、全国の消防機関が行う火災原因調査に対し専門的な知見や資機材による鑑識等の技術支援を行うなど、消防機関の調査技術の向上や火災原因調査・原因究明体制の充実・強化を推進しているところであり、今後も関係機関との連携強化を図りつつ、消費者の安心・安全の確保に努めてまいります。

輪島市大規模火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会報告書の概要について

総務省消防庁 消防・救急課／予防課

1 はじめに

令和6年1月1日(月)午後4時10分、石川県能登地方を震源とする地震(マグニチュード7.6)が発生し、石川県輪島市や志賀町で最大震度7を観測したほか、北陸地方を中心に北海道から九州地方にかけて震度6強から震度1を観測するなど、非常に広範囲で揺れを観測した。

この地震では、新潟県、富山県、石川県において、強い揺れや津波の発生に伴い、火気設備や電気配線等を要因とする火災が計17件発生し、輪島市朝市通り周辺では大規模な市街地火災となった。管轄する奥能登広域圏事務組合消防本部では、半島という地理的制約がある中、道路損壊等により陸路での地元外からの早期応援が困難な状況下で、水道管の破断により多くの消火栓が使用不能となるなど、限られた消防力での消火活動を余儀なくされた。



輪島市河井町火災現場周辺
(三重県防災航空隊撮影)



輪島市朝市火災現場での活動
(奥能登消防本部から提供)

また、住民が避難することによる火災の発見・通報、初期消火の遅れなど大規模地震時の火災予防の面や、都市構造の不燃化や密集市街地の整備改善、建築物等の耐震化の促進などまちづくりの面でも課題が確認された。

消防庁では、これらの課題に関し検討を行うため、令和6年3月より、「輪島市大規模火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会」を開催し、同年7月に報告書が取りまとめられたため、本誌でその内容を紹介する。

2 検討会の目的

令和6年能登半島地震により、輪島市朝市通り周辺において発生した大規模火災における原因調査の結果等を踏まえ、消防活動等の検証を行い、今後取り組むべき火災予防、消防活動、消防体制等の充実強化のあり方について検討を行うため開催した。

なお、検討会では、まちづくりの観点についても検討を行うことから消防庁と国土交通省住宅局の共同事務局で開催した。

- 検討会委員 : 15 名
(有識者、都道府県、消防関係)
- 検討期間 : 令和6年3月～同年6月
- ※ オブザーバー : 関係省庁及び条件不利地域の首長がオブザーバーとして参画

3 検討会での検討事項

- (1) 地元消防本部等の体制強化
- (2) 応援部隊の体制強化
- (3) 地震火災対策の推進

※ 本稿では、国土交通省住宅局所管のまちづくりの項目は除くものとする。

4 検討会報告書の主な内容

(1) 地元消防本部等の体制強化

ア 震災時の木造密集地域での活動について勘案した計画の策定等

木造密集地域で火災が発生した場合に備え、各消防本部において、消防力を効果的に活用し消火活動を行うため策定している火災防ぎょ計画について、優先的な部隊投入、消防水利の指定や延焼阻止線の設定など震災時に対応できる計画として見直しを行うことが必要である。

イ 津波の状況に応じた活動のための効果的な情報収集等

各消防本部は、気象台とのリスクコミュニケーションを通じて、管内地域における津波災害のリスクや特徴について理解を深めるとともに、津波災害時に連携できる体制（ホットライン等）を構築しておくことが必要である。

ウ 津波時の浸水想定区域での活動について勘案した計画の策定等

各消防本部においては、安全・的確に消防活動を行っていくため、活動時間や活動エリアの設定、退路の確認、安全管理、情報連絡体制等の計画等の策定を推進することが必要である。

なお、津波による影響は地域ごとに違うため、計画の策定に当たっては地域特性や過去の災害事例を考慮するとともに、都道府県や市町村の担当部署とも連携しつつ、気象台など専門家の意見を踏まえた計画の内容にすることが必要である。

また、各消防本部においては、被害想定の変更や新たな技術革新に応じた、定期的な計画等の見直しや、計画に基づき平時から関係機関を交えた訓練を実施し、津波時の災害に備えるとともに、必要に応じ計画を見直すことが必要である。

エ 消防水利の確保が困難である場合等における消火方策

消防水利の確保が困難である場合や津波警報下で浸水想定区域内の火災現場に部隊を投入できない場合は、火災の延焼拡大のおそれがある。

航空機により延焼方向への予備散水を行うことで、周囲への延焼阻止など一定の効果が見込まれると現場指揮者等が判断した場合は、空中消火を要請することが考えられる。

このため、市街地の空中消火について、あらかじめ都道府県の防災航空隊等と連携し、空中消火を実施する条件、要請手順、空中消火の散水要領等について定めた空中消火計画の策定を推進することが必要である。

オ 火災の早期覚知、情報収集のためのドローン、高所監視カメラ等の整備促進

地震・津波発生時は地域住民が避難することによって火災等の覚知が遅れることが懸念されるため、各消防本部は、管内の災害状況を迅速・的確に把握するため、ドローンや高所監視カメラ等の整備を行うことが必要である。



火災の早期覚知等のためのドローン

カ 消防署等、消防施設の耐震化・機能維持

大規模災害等において、迅速に出動する体制を確保するため、消防本部、指令センター、消防署、出張所等の消防施設の耐震化や設備・資機材の転倒防止を図ることが必要である。併せて、津波浸水想定区域外への移転、非常電源設備の整備等により消防防災拠点としての機能を維持するための対策を講ずることが必要である。

また、指令システムがダウンした時に備えた通報受付マニュアルの策定や、119番回線の迂回経路の整備などを行うことが必要である。

キ 消防水利の確保

(ア) 耐震性貯水槽の設置促進

各消防本部において、地震・津波災害時の大規模火災現場での消防活動に必要な放水量を確保するため、大容量耐震性貯水槽の整備や、分散配置、津波災害時の活動の安全を勘案した追加配置等の対策を講じておくことが

必要である。

また、既存の防火水槽について、周囲の家屋や施設等の倒壊等による影響について再点検し、地震時に的確に使用できるよう建物倒壊等の影響を受けない区域への移設などの対策を講じておくことが必要である。

(イ) 無限水利の活用

- a. 海水利用型消防水利システム(スーパーポンパー)等の整備と浸水想定区域外からの遠距離送水計画の策定促進

地震や津波発生時の大規模火災現場において、継続的な放水量を確保するため、津波浸水想定区域外にある河川等の自然水利を活用し、大容量かつ遠距離の揚水、送水が可能な海水利用型消防水利システム等の車両の整備を推進するほか、地域の実情に応じ、河川等の水利指定や部署位置、必要な車両台数等について定めた遠距離送水計画の策定を推進することが必要である。



海水利用型消防水利システム(スーパーポンパー)

- b. 低水位河川でも使用可能な資機材(ディスクストレーナー等)の整備促進

地盤が隆起して河川の水位が低水位になった状況でも、河川に部署した消防車両が確実に取水し、消火活動に必要な放水量を確保するため、低水位河川でも取水可能なディスクストレーナー等の整備を推進することが必要である。

ク 消防団の充実など地域防災力の強化

今後発生が危惧される大規模災害等において、消防団の出動体制を確保するため、消防団拠点施設(詰所)の耐震強化や、狭隘な道路や悪路でも通行できる機動性の高い小型車両等の整備を推進することが重要である。なお、地震の

揺れにより、消防団車両が消防団拠点施設(詰所)のシャッターに衝突し、出動まで時間を要した事例があったことから、車輪止めを確実に設置し、車両への影響を最小限にするなど、適切な車両の維持管理や定期的な点検整備を行うことにも留意する必要がある。

消防団の迅速な災害対応を確保するため、女性や経験が浅い団員も含め、全ての団員が比較的容易に使用できる小型化・軽量化された救助用資機材等の整備を推進するとともに、迅速な情報収集が可能なドローンや、災害情報や団員の出動状況の共有等が可能なアプリケーションなどのデジタル技術の活用を進めることが必要である。

なお、初動対応能力の向上の観点から、救助用資機材等の取扱訓練や、ドローンを活用した実践的な訓練を行うことも重要である。

さらに、地域防災力の強化のために、自主防災組織や防災士等の多様な主体と消防団が、防災知識啓発や訓練等の取組を通じて、日頃から連携を深めることが重要である。

上記のとおり、消防団の災害対応能力の強化に取り組む必要がある一方、全国的に減少が続く消防団員の確保も大きな課題である。このため、女性や若者などの入団促進に向けた広報や、処遇の改善、機能別団員・機能別分団制度や消防団協力事業所表示制度の活用、企業や大学等と連携した入団促進への取組など、消防団の更なる充実に取り組むことが必要である。

(2) 応援部隊の体制強化

- ア 悪条件下での進出・活動を可能とするための車両の小型化、資機材の軽量化

道路が狭隘でも通行可能で人員輸送等が可能な車両や、悪路等の悪条件下でも救助可能な車両等を配備するとともに、緊急消防援助隊の陸路以外での柔軟な進出に向けた部隊編成及び出動計画等の見直しを行う必要がある。

また、電動式で小型軽量の資機材一式(電動チェーンソー、電動コンビツール等)をパッケージ化し、全国の緊急消防援助隊に整備するなど、迅速な被災地進出により、初動期の活動体制の更なる強化を図る必要がある。

イ 小型車両等を有する先遣部隊の編成、ピストンによる進出

道路事情が悪い場合において、被災地へ人員・資機材をピストン輸送できるよう、普通車クラスの車両や軽量の資機材の配備（人員輸送車、小型救助車等）、それらの車両等を有する先遣部隊の編成など体制を整備することが必要である。

ウ 空路・海路での応援部隊及び車両・資機材の投入、関係機関との連携強化

平時より空路進出（自衛隊ヘリコプターによる人員輸送や、自衛隊輸送機による人員及び車両輸送）や海路進出（海上保安庁巡視船等による人員輸送）が迅速に行えるよう、関係機関との円滑な連携に向けた体制整備、連携訓練、関係機関の輸送機等で輸送可能な消防車等の確定などの対応が必要である。このほか、道路啓開技術を有する民間建設業者との協力体制を事前構築しておくことも重要である。

(3) 地震火災対策の推進

ア 地域における火災予防の推進

家具転倒防止対策、耐震自動消火装置の付いた火気設備、住宅用火災警報器や防災品、住宅用消火器等の普及を推進することが必要である。

まちぐるみでの消火器等を用いた初期消火や飛び火警戒の訓練、シミュレーションやDIG（Disaster Imagination Game, 災害図上訓練）を用いた防災訓練など、地域における防災教育を通じ、住民の防災意識の向上を図ることが必要である。

なお、実災害時において、初期消火や飛び火警戒を実施する際は、建物倒壊や火災の延焼拡大、津波浸水等により逃げ遅れることがないように、安全に留意し可能な範囲で対応するよう訓練時等に指導することが必要である。

イ 大規模地震時の電気火災対策

近年の大規模地震においては、電気に起因する火災が多く発生していることから、地震時の電気火災リスクを低減するため、感震ブレーカー等の普及を積極的に推進することが必要で

ある。

これに当たり、防災基本計画（令和6年6月28日修正）において感震ブレーカーの普及が位置付けられたことを踏まえ、地域防災計画の見直しを実施することが必要である。

5 消防庁の対応

消防庁では、今後、各消防本部において策定すべき津波時の浸水想定区域での活動について勘案した計画の策定等について、全国の消防本部の事例を踏まえつつ、計画に盛り込むべき事項等を計画例として示す予定である。

また、地震火災対策の推進として、感震ブレーカー等の普及に向けて、各地域における取組を促進するため、感震ブレーカー等について実態把握を行った上で、消防庁においてモデル計画を策定し、別途通知する予定である。

6 おわりに

今後、全国の消防本部において、地域の実情を踏まえた地震・津波時の消防活動計画等の策定や必要な資機材等の整備、地震火災対策などの消防防災対策が着実に実施されるよう、消防庁においても、消防本部や地域の声に耳を傾け、時代に即した消防防災力の向上に全力を尽くしていく所存である。

注）本記事は、令和6年7月にとりまとめられた「輪島市大規模火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会報告書」をもとに、同年8月に執筆したものである。

（参考文献）

総務省消防庁「輪島市大規模火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会」報告書、2024年7月

https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/items/post-149/03/houkokusyo.pdf



「実火災への対応力強化のために」

熊本県 高森町消防団 副団長 吉良 嘉文

熊本県阿蘇郡高森町は、九州のほぼ真ん中、熊本県の最東端、北は大分県竹田市、南は宮崎県高千穂町との三県境に位置する町です。

町のシンボルは阿蘇五岳のひとつ、標高1,408mを誇るぎざぎざ頭の根子岳です。

高森町消防団は、現在308名の団員が在籍し日々町の安心・安全のために日夜活動しています。

本消防団では、団員の消火戦術能力向上の為に、令和5年度より標的倒し競技大会を実施しております。競技大会では、様々な火災状況を付与し、配備されている資機材をフルに活用しながら標的を倒すタイムを競うものです。今年度は、木造平屋建ての住宅で火災が発生、また出火建物に隣接する木造2階建て住宅へ延焼の危険が大である。なお、使用できる消防水利は出火建物を更に進行したところにある河川のみで消防車の侵入はできないという想定で行います。12ある分団がそれぞれ違う消火戦術で競技を行う様子は、消防操法大会にも引きを取らないものになっています。

今後も標的倒し競技大会を継続し、高森町消防団の能力向上に努めていきます。





「水俣市消防団を紹介します」

熊本県 水俣市 水俣市消防団

私たち水俣市消防団は深夜でも早朝でも、晴れていても雨が降っていても、常に地域の安全を第一に考える揺るぎない意志を持った団員で構成されています。火災や自然災害など、異なる状況で求められる様々な対応を養うため、我々は日々訓練に励んでいます。

本年度実施した水俣市消防点検においてはあいにくの悪天候でありましたが、いかなる条件下においても我々消防団は、火災発生時にいち早く現場に駆けつけ、消火活動を行う必要があることから、安全に十分配慮しながら放水競技を敢行しました。無事怪我もなく終わり、団員にも貴重な経験になったものと考えています。

また、近年は火災時だけでなく、災害時の避難誘導や行方不明者搜索など時代の変遷とともに消防団に求められる役割は変化してきておりますが、今後も団員それぞれが信頼と尊敬の念を持って、地域と連携し、我々消防団が地域の無事を見守ることで、市民の皆さんの安全な暮らしを守り続けていく所存です。



うちの

名物団員



神奈川県

大和市消防団 分団長

鈴木 慎一

大和市消防団からは、我が消防団のヒーロー、鈴木分団長を紹介いたします。
鈴木さんは、専業農家として、様々な野菜作りに携わり、出品した品評会では、常に上位の成績を残しています。その中でも、中玉トマトとトウモロコシ(大和ルージュ)は、自慢の一品で、路地販売では、すぐに完売する人気の野菜です。

また、高校時代には、名門校でサッカーのレギュラーとして、全国大会に出場し、見事なシュートで勝利を導いた経験をもち、現在も出身校の応援に度々駆け付けています。

今後も、スポーツで鍛え上げた、体力と精神力をモットーに地域の防災リーダーとして、市民の安全・安心のため、尽力していきます。



京都府

京丹後市消防団 丹後方面隊長

岡崎 浩和

京丹後市丹後町の副団長から、岡崎副団長を紹介します。

岡崎さんは、消防団のかたわら農家と狩猟もされており、団として町を、農家として食料を、猟師として農地や山を守っておられます。「困った時はお互い様」の精神でこれからも消防団活動に取り組みたいと語っておられました。



熊本県

水俣市消防団 副団長

吉海 一寛

水俣市消防団副団長として12年。普段は地元で有名な養豚牧場に勤務しながら、団の中核として迅速な対応とチームワークを重視して火災現場での陣頭指揮や日々の訓練を行い、市内の安全安心を守っています。今後は、隊員の減少等から現在活動が停滞している音楽隊の復活にも力を注ぎます。



楡葉町消防団からは、今年6月まで8年間にわたり団長を務めた小薬金重前団長を紹介します。

小薬前団長は、東日本大震災の発災時から消防団本部にて活躍され、自然災害と原子力災害に全力で対応にあたりました。

楡葉町は原子力発電所の事故により居住者が一度「0」となった町ですが、平成28年7月より団長に就任し消防団の再構築に力を尽くされました。

数々の大変な経験も、「地域の為に活動できていることが、何よりも楽しかった。」と笑いながら語る人柄は、皆に愛され、懇親会では嗜好品の「ウイスキーの牛乳割り」が前団長の代名詞にもなっています。

約43年の消防団生活、本当にお疲れ様でした、これからも機能別団員として宜しくお願ひします。



静岡市消防団からは、由比第2分団の望月久功部長を紹介します。

望月部長は、富士山の伏流水が海底から湧き出すことで豊かな漁場を生み出している駿河湾で、その豊かな恵みを象徴する「由比の桜えび」の船元(漁業)をしています。

「桜えび」は静岡県を代表する特産の一つで、この「桜えび」の美味しさを求め、日本中から多くの旅人が訪れます。

そんな望月部長は、温厚で笑顔に溢れ、漁師としても超一流ですが消防団員としても地域の安全安心のため、昼夜を分かたず積極的に消防団活動に励んでおり、市民の皆さんからの信頼もとても厚い地域の自慢の男です。今後も様々な活躍に期待しています。



高森町消防団からは、吉良嘉文副団長を紹介します。

吉良さんは、お父様が元消防団長、弟さんが現在第6分団の分団長を務められており、高森町消防団に吉良家あり、と言われるほどに消防団活動に熱心です。

また、普段はコンビニエンスストアを経営されており、先輩、後輩に慕われている吉良さんのお店は、消防団員、町民の憩いの場となっております。

日頃から団員への声掛けなど優しい一面のある吉良副団長、災害現場でも率先して動く姿は、まさに高森町消防団の鑑です。

これからの活躍に期待しています。



消防団の広場

京都府 「小さな積み重ねを大切に、京丹後市の安全・安心な暮らしを守る」

京丹後市消防団
団長

川浪 隆将



京丹後市は、京都府の北部に位置し、平成16年に峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町の6町が合併して誕生しました。日本海に面した自然豊かな地域で、美しい海岸線や山々、そして海の幸に恵まれ、特に丹後産のコシヒカリや地元で水揚げされるカニなど、地元の食材を活かした料理は、訪れる人々にとって大きな魅力となっています。

本市の消防団は、市制の始まりとともに「京丹後市消防団」として編成され、組織は、合併前の旧6町消防団をそのまま引き継いだ形でスタートしました。

その後、消防団組織の見直しがなされ、平成28年4月から、団長を補佐する副団長を3名配置し、より機動力のある効率的な活動が行えるよう、旧6町消防団を各方面隊とする現在の体制に生まれ変わりました。(令和6年4月1日現在、団本部、6方面隊、団員数1,481名)

日頃は、地域の安全・安心を守るため、様々な活動を展開しています。全国火災予防運動期間中には、市内全域で非常招集訓練に取り

組み、火災や災害等に迅速かつ適切に対応するための訓練や消火栓等の点検、防火パレードを実施しています。また、定期的な火災予防パトロール(夜警)や女性消防隊による防火訪問を実施するなど、火災予防啓発活動にも力を入れています。



京丹後市消防団
イメージキャラクター
「きょうたん」

昨年8月、私たちは消防団として過去に経験のない林野火災の消火活動を行いました。久美浜町で発生したこの火災は、焼損面積36.5ヘクタールという広範囲なものでした。真夏の暑さに加え、炎と煙が迫る危険な状況の中、消火活動は実に14時間以上、深夜まで続けました。この活動には、管轄の久美浜方面隊だけでなく、峰山、網野、丹後の各方面隊も応援出動し、これまでに経験したことがない広域的な活動にもかかわらず、複数方面隊が連携し効果的な活動を展開することができました。

これは、消防団員が日頃から訓練を積み重ねてきた成果であり、小さな積み重ねが大きな成果に結びつくことを示した素晴らしい例だと思っています。

これからも、地域の皆さんや京丹後市を訪れてくださる方々の安全・安心を守るべく、より一層消防団活動に励んでまいります。



文化財防火運動に伴う消防訓練



非常招集訓練での防火パレード(出動前)



ぼうさい こくたい

2024 in 熊本

みんなで
行くモン!!



©2010 熊本熊くまモン

第9回防災推進国民大会

復興への希望を、
熊本から全国へ
～伝えるばい熊本!
がんばるばい日本!～



写真提供：熊本城総合事務所

開催日

10/19^土・20^日

10:00～18:00 (予定) 10:00～15:30 (予定)

開催場所

熊本城ホール、熊本市国際交流会館、花畑広場

詳しくはWEBサイトで!

ぼうさいこくたい

検索



入場・参加
無料

一部オンラインでも
配信予定

併催イベント 「世界津波の日」2024高校生サミット in 熊本

10/23^水—24^木

会場：熊本城ホール

2024年度 全国統一防火標語

「守りたい 未来があるから 火の用心」

令和6年10月の日本消防協会関係行事

10月2日(水)	全国消防殉職者遺族会理事会 正副会長会議、臨時理事会 中間幹事監査・理事会(全日本消防人共済会)
10月3日(木)	第43回全国消防殉職者慰霊祭(ニッショーホール) 「ありがとう! 新日本消防会館完成記念大会」(ニッショーホール)
10月11日(金)	第30回全国消防操法大会激励交流会(宮城県仙台市)
10月12日(土)	第30回全国消防操法大会(宮城県利府町)
10月19日(土)~20日(日)	ぼうさいこくたい2024(熊本県) (主催:防災推進国民大会実行委員会)
10月29日(火)	日中消防協会定期協議会・日中韓消防協会会議(東京)

編集後記

カレンダーが8月から9月に変わる週末、当協会は虎ノ門の新会館に引っ越しました。心配していた台風10号の影響はほとんどなく、まずは順調に業務のスタートを切っております。日々の仕事はもちろんのこと、新会館に多くの方々をお迎えする最初の大事業、10月3日の全国消防殉職者慰霊祭を無事にやり遂げられるよう、職員一同気を引き締めて取り組んでいきます。

因みに、久しぶりに戻ってきた虎ノ門界隈は、周辺の再開発が進んで街の様相が激変しています。古くから営業していた味わいのある店が無くなったことに寂しさを感じつつも、都市の機能や防災基盤としては格段に強化されていると感じます。一説によると、虎ノ門は江戸城の西(実際の方角とは異なり富士山を北、海を南、隅田川を東とする考え方だそうです)の守り、白虎に由来するとのこと。当協会も日本の守りの一翼を担う気概で、これからも頑張ります。(T.Y)

9月から10月にかけては、行事が目白押しです。

9月14日(土)・15日(日)に「全国少年消防クラブ交流大会」が神戸市で、9月19日(木)には「第29回全国女性消防団員活性化大会とちぎ大会」が行われました。10月3日(木)は「全国消防殉職者慰霊祭」、「ありがとう! 新日本消防会館完成記念大会」、10月12日(土)には「第30回全国消防操法大会」が宮城県利府町で、10月19日(土)・20日(日)は「ぼうさいこくたい2024」が熊本県において行われます。この先11月、12月にも多くのイベントが行われます。行事に関係する皆様からのご協力を得ながら鋭意準備を進めております。それぞれの行事については、本誌で順次お知らせしてまいります。(T.I)

購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,508円
(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9496

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けています。 kikou@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第七十七巻第九号
令和六年九月五日印刷
令和六年九月十日発行

編集人 米澤健
発行所 (公財)日本消防協会

印刷所 東京都港区虎ノ門二丁目一十六
電話 〇三(6263)九四〇一(代)

株式会社アイネット
東京都中央区銀座七丁目一六二二
電話 〇三(3549)五六〇〇

消防人の 火災共済

風水雪害等共済金 補償倍率UP 300倍から750倍へ

**消防団員
消防職員
ならどなたでも
加入できます**

まさかの時お役に立ちます。

地震等災害見舞金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)
火災共済金375万円のお支払い

1500倍補償

B型火災共済 消防団
消防本部 毎に皆で加入

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

**落雷の損害
にも対応!!** 建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。



ひまわりしているか
ひのようじん

**お支払
対象**

- 火災共済金 火災・落雷・爆発・破裂
- 風水雪害等共済金 風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等
- 地震等災害見舞金 地震・津波・噴火

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-6263-9822
 詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25%）、配当率が適用されます。

老後生活に向けた
計画的な財産形成
が可能です。

月払の場合、
毎月一万円（ゆうちょ
銀行は五千円）から
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、
年金（6種類）又は
一時金からご選択
いただけます。

途中で脱退しても、
積立金（脱退一時金）
が受け取れます。

税制適格コースは
個人年金保険料控除
自由選択コースは
一般の生命保険料控除
の対象となります。

消防団員、消防職員
の退団・退職後も
継続できます。

（パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先）

公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00～17:00

お問い合わせ先

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会

（公財）日本消防協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目9番16号
 TEL.(03)6263-9401（代表）
<https://www.nissho.or.jp>